

山口県

第17回

優秀な人材供給を担う山口の大学・高専

産官学の フューチャープラン

173

「混濁とした今の時代に
おいて、大学はしっかりし
た物事の指針を示すパスフ
ァインダーの役割を担って
いるのではないかと。かつて
この地で学んだ若者たちが
150年前の明治維新の原
動力となったように、本校
を築立った若者たちが、や
がて新しい成熟した世の中
を創り出さなければならな
い」と語り、

山陽小野田市立山口東京理科大学

公私協力で科学者を養成

液晶と先端材料の研究所運営



○学長（副理事長）の森田廣氏である。

山口東京理科大学は、1987年に高度な技術者・科学者を養成すべく、小野田市（現山陽小野田市）、宇部市、山口県からの強い要請を受けて、公私協力方式によって小野田の地に同

森田廣氏



の連勝をさらに強化し、公立大学に移行することにつ

人の若い理学士たちは、1881年に東京理科大学の前身となる東京物理学講習所を設立。その後、明治後期〜大正期には師範学校と中学校の数学・理科教員の半数以上を物理学学校出身者が占めるなど、日本の物理教育の創生期を支えた」と

トロニクス研究所開発部長、電子事業本部液晶生産技術部長等を歴任。8年前に教授として赴任し、16年から現職に就いている。

東京物理化学講習所創設1カ月前の1981年5月、日本最初の民間セメント製造会社「小野田セメント製

は、108年の歳月を経て巡り合うことになったのである。地域の有志による教育熱と大学の多様性がマッチした成果といえよう。

「技術の世界の進歩は速く、産業界では最先端技術に精通するだけでなく、

革新をリードできる柔軟性豊かな人材を育成している（森田氏）と強調する。

同校では、機械工学科をはじめ、電気工学科や応用化学科などの工学部に979人が在籍しており、薬学部（6年）の1119人を含めて1098人が学ぶ。ま

習得し、事象の本質的な理解を深めるとともに、応用を創造できる能力と、課題を発見し解決できる能力を身につけた、独創性豊かな人材育成を目指している。

森田氏は「リーダーとして活躍するには学問知識のみならず、世界の動きや文

力を凝縮し、街に新たな生活基盤の恩吹を呼び込み、人々が集まってくる魅力のある教育の場にしていきたい」と（同）と、さびなる飛翔への意気込みを語る。

（特別編集委員 泉谷渉／ソウル支局長 嚴在漢）